

## [事業実施報告書]

### ダンスを通じた障がい者の機能回復開発及び実地ワークショップに関して

主催：Do-it

実地訓練施設：希望の郷（加西市）

Do-it では希望の郷に入所する障がい者の方を対象に、特に重度の障がい者の方でも気軽に楽しみながら、機能回復が図れるダンスメニューの開発を進めるべく加西市出身で東京在住のプロダンサーKIN を招き、希望の郷を実地訓練場所として本事業を実施しました。

ワークショップでは、まず初回にプロダンサーKIN、Do-it スタッフ、希望の郷スタッフとともに「機能回復」について検討しました。理学療法士（PT）を交えた検討会も実施しましたが、希望の郷の場合、重度の障がい者の方が入所しており、障がいについても複合的な障がい、例えば、下肢機能全廃及び知的障害といったケースがほとんどであり、高齢者の介護予防的な健康体操であれば開発できるが、障がいそのものの機能を回復されることは難しいという答えがでました。

機能回復に関して頓挫しつつある中で実際に昨年 KIN とともに Do-it が招かれた文化庁及び岐阜県の高齢者・障がい者・ボランティアスタッフ育成事業で実施したメニューをもとにしたワークショップを実施してみたところ、入所者の皆さんの反応がよくワークショップが終了した後もみなさんわくわくしながら時間を過ごし、次回を楽しみにされたとの話を施設スタッフから伺いました。

そこで、我々はダンスを通じて「心のケア」をすることで心身をリフレッシュさせ、それが生きがいつくりへ繋がるのではないかと考え、重度の障がい者でも、体の機能不全がそれぞれ違ってもだれでも楽しめるヒップホップダンスメニューを開発することに手法を変更し、各スタッフで協働しながら、ワークショップを重ねました。

また、ワークショップの集大成として広く市民の皆さんへこの活動を周知することで障がい者支援の啓蒙を図るよう舞台発表や希望の郷の夏祭りでその成果を発表しました。

希望の郷で経験したメニューに関しては、地域の NPO 法人と連携し、加西市内の特別支援校で同メニューを試行実施しました。

ワークショップ実施後は学校の先生や保護者、特に生徒から今後も持続した取り組みをしてほしいとお願いされ、学校内の行事対応となると Do-it のスタッフ確保が難しい点や KIN の報酬や旅費等の予算的な問題など課題も多くありますが本助成金など障がい者の社会支援に理解のある制度を活用し、本年度できるだけ継続する形にもっていきたいと考えています。

特別支援校での対象者は希望の郷とは年齢が違い、特に小学生から高校生までの子ども達にはもう少し筋力増を盛り込んだメニューが必要ということになりました。

特別支援校でもそれぞれの生徒さんによって障がいの度合いや種類は違いますが、一様に「楽しみながら汗をかく」といったことを基本に指導すればハードな運動でも喜んでいただき、また学校行事でしか運動することがないような方にそれ身体にもいい影響

を及ぼすということがわかりました。

《事業効果》

重度の障がい者向けのワークショップに関しては、KINの指導DVDを作成し、Do-itより無償で貸し出しやダビングをして障がい者の心身機能の回復や維持に貢献するようメニュー化しております。

希望の郷に続き、市内の特別支援校とネットワークを形成することができました。

特に障がいのある方にとって幼少期の経験はその後の人生を大きく左右します。我々中間支援団体が民間企業や地域社会にその支援を活動を通じて訴えることで社会全体が障がい者に目をむけ支援することが当たり前になるよう啓発してくよう努めたいと思います。